



回答は
こちら

耳の検査のご案内

耳はお子さんのことばや知能の発達にとって、とても大切な働きをしています。生まれつき聞こえにくかったり、耳の病気で難聴になったりすると、たとえ程度は軽くても、お子さんにとっては後々大きな影響を与えることにもなりかねません。この年齢でかかりやすい滲出性中耳炎は痛みの訴えがないので保護者が気付きにくく、聞こえにくい状態が長期間続いてしまうと言葉の発達に影響が出てくる可能性があります。3歳児健康診査はお子さんの耳の聞こえを確認するよい機会ですので、ご家庭で検査を行い、その結果をwebフォームに入力してください。

※テレビの音や外の音などがしない、できるだけ静かな部屋で検査を行ってください。

【指こすりによる検査】

●検査の方法

- 1 お子さんの目の前で、親指と人さし指を、少し強めにこすって見せます。そして、カサカサという音が聞こえたら、すぐに手をあげるよう教えます。
- 2 次に、右図のように、保護者はお子さんの後ろに立ちます。そして、お子さんの耳の、真横 5 cm くらいの所で、指を軽く 5～6 回こすります。(保護者の耳には、音がほとんど届かない程度の大きさで)
- 3 最初は右、次に左というように、検査を数回行い、左右別々に、聞こえるかどうかを判断し、結果を記録します。

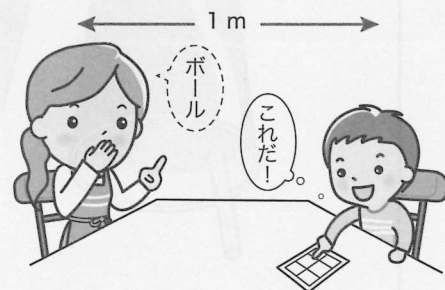
※指こすりの際、指が見えたり、髪に触れたりしないようにしてください。



【ささやき声による検査】

●検査の方法

- 1 絵をお子さんの方に向けて置き、1 m くらい離れ、向かい合って座ります。
- 2 「この絵の中の名前を言うから、ぴったりの絵を指さしてね。」とお子さんと言います。普通の声(会話をする時の声)で、裏面の絵シートの表示した絵の名前を言い、お子さんが 6 個の絵をすべて正しく指させるようにします。
- 3 「今度は小さな声で絵の名前を言うから、よく聞いて、指さしてね。」とお子さんと言います。口元を見せないように手などで隠し、6 個の絵の名前を、ささやき声で 1 回ずつ言い、正しい絵を指さしたら○、正しく指させなければ×を、検査がうまく行えなかったときは△を記録します。
- 4 6 個の絵のうち、1 つでも正しく指さしできなかったときは、もう一度検査を行い、結果を [2 回目] に記録します。



●ささやき声の出し方

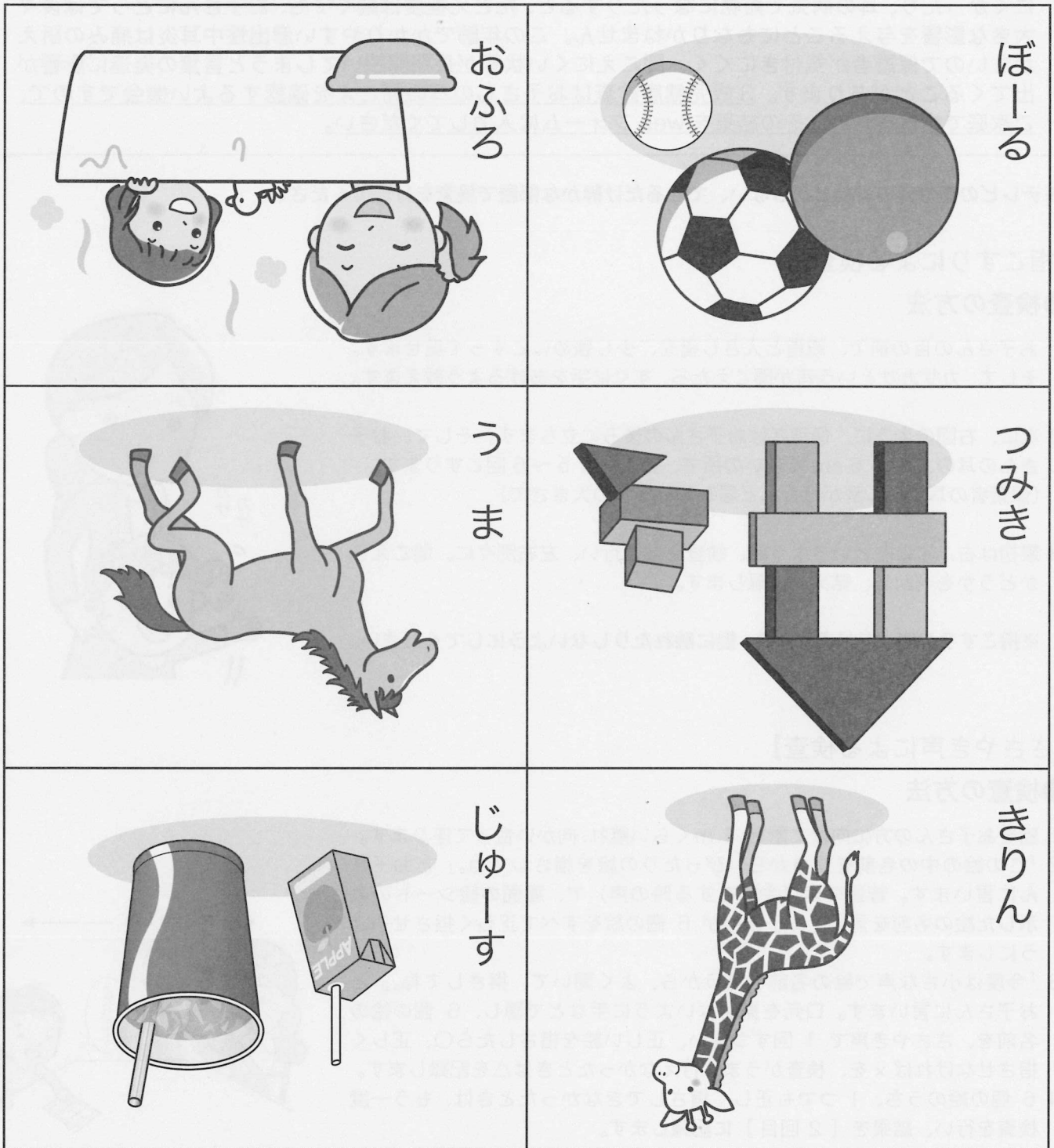
ささやき声は、息を出すだけの感じで、ないしょ話のようにささやきます。普通の声は、のど(のどぼとけ)に手をあてたとき、指に振動が感じられますが、ないしょ話のようにささやくと振動は感じません。この状態が「ささやき声」です。

※絵の名前を言うのは 1 回だけです。聞き返されても、繰り返し言わないでください。また、ささやき声が大きくならないように注意してください。



絵シート

こども側



保護者側

- 1 絵をこども側（文字は保護者側）にして、絵シートを置いてください。
- 2 1 m くらい離れて、保護者の口元を手などで隠し、必ずささやき声で検査を行ってください。
- 3 絵シートは大切に保管し、時々聞こえの検査に利用しましょう。